

水と土の 芸術祭

Water and Land
Niigata Art Festival 2018

PASS PORT

パスポート

好評販売中

水と土の芸術祭とは 新潟市の水と土によって形成された、独自の風土や文化に光をあてることで、人間と自然との関わりかたを見つめ直し、未来を展望していくヒントとなるものを探る芸術祭です。また、アートを媒介することで、先人たちが築きあげてきた水と土の文化を、国内外に発信し、次の時代を担う子どもたちに伝えていきます。4 回目となる今年の芸術祭は、信濃川の河口、新潟西港に位置する万代島多目的広場をメイン会場に、国内外のアーティストが新潟市中央区を中心にアート作品を設置するほか、市内全域で市民によるアート、食、芸能、まち歩きなど、新潟の魅力伝えるさまざまな催しを行います。

会期 **2018.7.14 |土| - 10.8 |月・祝|**
 展示会場 万代島多目的広場、ゆいぽーとほか新潟市全域

パスポートは会場ごとの単館チケットを購入するよりも **お得に楽しめます!**
 開幕までに購入できる **前売りパスポートはさらにお得!!**

パスポート料金

※再発行・交換・払い戻しはできません。
 なお、身分証の提示を求める場合があります。

区分	前売料金 7.13 (金)まで	当日料金 7.14 (土)以降
一般	1,200 円	1,500 円
学生・65 歳以上	800 円	1,000 円

※中学生以下、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳のいずれかを提示した方及び介助者1名は無料



パスポートイメージ

アートプロジェクト 作品展示会場

■ 有料会場 ■ 別途要入館料 ※屋外展示作品は無料となります。
 詳細は、水と土の芸術祭 2018 公式ホームページまたは 6 月発売予定の公式ガイドブックをご覧ください。

万代島エリア

- メイン会場
 ■ **大かま** 万代島多目的広場
- JR 新潟駅
 - 信濃川やすらぎ堤

砂丘エリア

- サテライト会場
 ■ ゆいぽーと 新潟市芸術創造村・国際青少年センター
- 新潟市美術館 海の庭 山の庭
- 北方文化博物館 新潟分館
 - 砂丘館
 - NSG 美術館
 - 関分記念公園
 - 旧齋藤家別邸
 - 安吾風の館
 - 西海岸公園

鳥屋野潟エリア

- 天寿園
- 旧栗ノ木排水機場
- 清五郎潟

その他 (秋葉区・西蒲区)

- 新津美術館・前庭
- 上堰潟公園
- 角田浜

パスポート特典

※パスポート1枚につき、記名した1名様限り有効。有効期限及び回数は、各施設によって異なります。

本パスポートの提示で

旧齋藤家別邸、北方文化博物館新潟分館
 団体料金にて入館可

有料会場3か所のスタンプを押した本パスポートの提示で

新潟市水族館 (マリンピア日本海) 入場無料、新津鉄道資料館 観覧無料
 新潟市歴史博物館 (みなとぴあ) 常設展 観覧無料、旧小澤家住宅 観覧無料

パスポート販売場所 (順不同)

セブンチケット(引換券販売)、チケットぴあ(引換券販売)、新潟市各区役所、みなとぴあ、りゅーとぴあ、マリンピア日本海、新潟駅万代口観光案内センター、新潟市美術館、シネ・ウインド、新潟伊勢丹プレイガイド、km-0 niigata lab、新津美術館、万代島美術館、新潟市東京事務所、水と土の芸術祭 2018 実行委員会事務局 (新潟市文化創造推進課内) ほか

[水と土の芸術祭2018パスポート]

3つの有料会場[大かま 万代島多目的広場(屋内)、NSG美術館、天寿園(屋内会場)]に入場できるパスポートがお得です!

有料会場	大かま 万代島多目的 広場(屋内)	NSG美術館	天寿園 (屋内会場)
パスポート	前売	一般1,200円、学生 ^{※1} ・65歳以上 ^{※2} 800円	
	当日	一般1,500円、学生 ^{※1} ・65歳以上 ^{※2} 1,000円	
単館チケット (当日券のみ)	一般	1,000円	700円
	学生 ^{※1} ・65歳以上 ^{※2}	700円	500円

※1 学生:高校生、大学生、短大生、大学院生、専門学校生

※2 65歳以上:利用日時点

次に該当する場合は無料 ○中学生以下 ○身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳のいずれかを提示した方及びその介助者1名

有効期限

2018年7月14日(土)～10月8日(月・祝)

販売場所

セブンチケット、チケットぴあ、メイン会場、サテライト会場、新潟駅万代口観光案内センター、新潟市美術館、新潟市水族館<マリニピア日本海>ほか新潟市内文化施設など

※メイン会場、サテライト会場は7月14日(土)から販売

[会場]

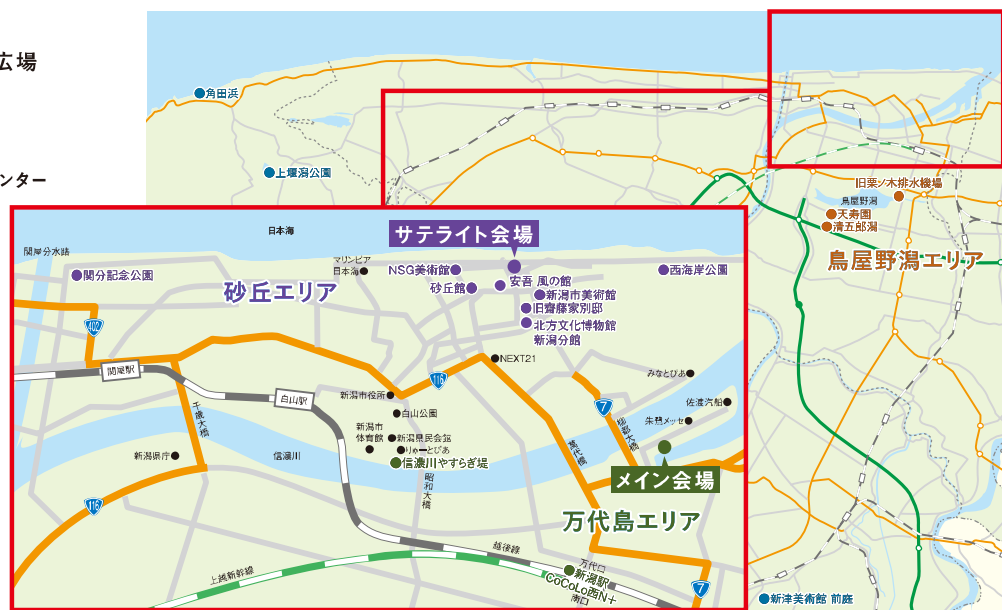
万代島エリア
[メイン会場] 万代島多目的広場
新潟駅CoCoLo西N+
信濃川やすらぎ堤

[サテライト会場] ゆいぼーと
新潟市芸術創造村・国際青少年センター

砂丘エリア
NSG美術館
砂丘館
安吾 風の館
旧齋藤家別邸
北方文化博物館新潟分館
新潟市美術館
西海岸公園
関分記念公園

鳥屋野潟エリア
天寿園
旧栗ノ木排水機場
清五郎潟

その他エリア
新津美術館 前庭
上堰潟公園
角田浜



移動には、みずつつしシャトル便が便利

会期中、メイン会場の万代島多目的広場と砂丘エリアをむすぶ「みずつつしシャトル便」を運行します。
経路:メイン会場-新潟市美術館前-サテライト会場-NSG美術館前-砂丘館前-
NEXT21前-メイン会場

料金:1回200円

★水と土の芸術祭2018公式ガイドブック提示で乗車無料です。
中学生以下及び障がい者手帳をお持ちの方は乗車無料です。

新潟駅～メイン会場は バスで約15分

新潟駅万代口バスターミナルより
佐渡汽船線「佐渡汽船」行(3番線)または、「新潟市観光循環バス」朱鷺メッセ先回りコース(2番線)乗車。「朱鷺メッセ」下車。

おもてなしまちあるき(8日前までに要予約)

期間中、新潟駅とメイン会場間を新潟の文化を楽しく学びながら移動できるまちあるきを実施します。
コース:新潟駅・メイン会場 料金:500円 所要時間:約60分
ガイド:新潟シティガイド 申込み:025-226-2629
※メイン会場休館日とまちあるきイベント実施日は除く
※1日2回実施。午前10:30出発、午後1:30出発

[新潟市へのアクセス]

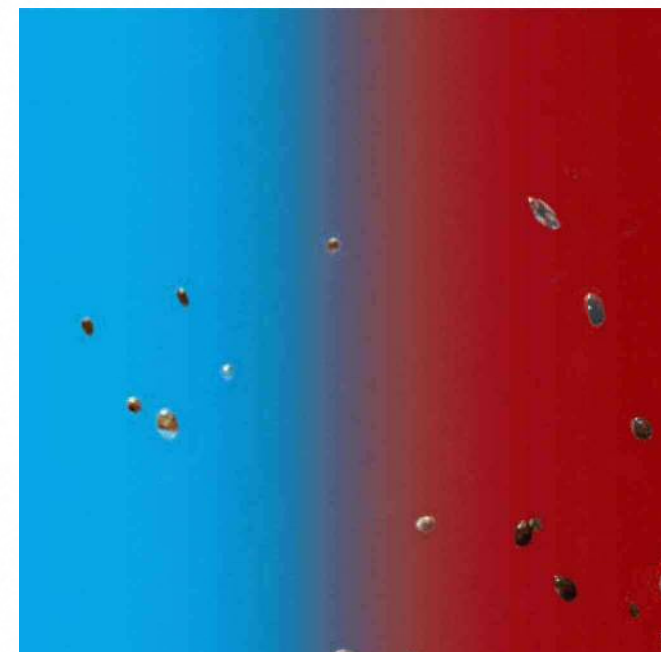
- 新幹線でお越しの方
東京から=[上越新幹線で新潟駅下車]約2時間 大阪から=[東海道・上越新幹線で新潟駅下車]約5時間
- 飛行機でお越しの方
札幌から=[新千歳空港-新潟空港]約1時間15分 成田から=[成田国際空港-新潟空港]約1時間5分
大阪から=[伊丹空港-新潟空港]約1時間 福岡から=[福岡空港-新潟空港]約1時間30分
- 自動車(高速道路)でお越しの方
東京方面から=[関越・北陸自動車道/練馬IC-長岡JCT-新潟西IC]約3時間20分
大阪方面から=[名神高速道路・北陸自動車道/吹田IC-米原JCT-新潟西IC]約6時間20分

[公式ガイドブック]

- 2018年6月26日(火)発売
- 1,000円(税込)
- フルカラー148ページ
- 新潟県内及び都内書店で販売
新潟市内の文化施設や飲食店での割引など多岐特典付!



[お問い合わせ] 水と土の芸術祭2018実行委員会事務局
〒951-8550 新潟市中央区学校町通1番町602番地1(新潟市文化創造推進課内)
Tel:025-226-2629 Fax:025-226-0050 E-mail:info@mizu-tsuchi.jp



水と土の 芸術祭 Water and Land Niigata Art Festival 2018

MEGA BRIDGE

つながる。出会う。
交ざり合う。

2018 7.14 SAT - 10.8 MON 会場 | 新潟市 | メイン会場: 万代島多目的広場



水と土の芸術祭

Water and Land Niigata Art Festival 2018

つながる。出会う。交ざり合う。

会期／2018年7月14日[土]～10月8日[月・祝] 計87日間
 会場／[メイン会場] 万代島多目的広場
 [サテライト会場] ゆいぽーと 新潟市芸術創造村・国際青少年センター
 ほか新潟市全域
 主催／水と土の芸術祭2018実行委員会
 後援／総務省、経済産業省、駐新潟大韓民国総領事館、在新潟ロシア連邦総領事館、中華人民共和国駐新潟総領事館
 助成／平成30年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業、公益財団法人日本財団、一般財団法人地域創造、
 損保ジャパン日本興亜「SOMPO アート・ファンド」(企業メセナ協議会 2021 Arts Fund)、
 公益財団法人朝日新聞文化財団



総合ディレクター：谷 新(美術評論家)
 アート・ディレクター：塩田 純一(前新潟市美術館館長)
 市民プロジェクト・ディレクター/子どもプロジェクト・ディレクター：藤 浩志(秋田公立美術大学副学長/美術家)

2009年から始まり今年第4回展を迎える「水と土の芸術祭」は、「私たちはどこから来て、どこへ行くのか～新潟の水と土から、過去と現在(いま)を見つめ、未来を考える～」という基本理念のもと「メガ・ブリッジつなぐ新潟、日本に世界に―」というコンセプトで臨みます。信濃川、阿賀野川の両大河、日本最大級の砂丘列、潟湖、そして日本最大級の穀倉地帯。他に類を見ない新潟の特長を、国内外で活躍するアーティストと協働する市民とともにアピールし、これまでにない新しい新潟の魅力を生み出していきたいと思ひます。

水と土の芸術祭2018 総合ディレクター 谷 新

ART アートプロジェクト

新潟の自然の成り立ちは「水」と「土」に象徴されます。それは<地水火風>という古くからの「四元素」を思わせます。そこは豊かでバラエティーに富んだ「生命」の誕生をうながし育みまし。今回のアートプロジェクトは、こうした「四元素」を素材やテーマにし、生命感あふれる表現や人間のいとなみの歴史などを表現した作品によって構成されます。また、かつて北前船の最大の寄港地であった新潟は、日本海を囲むアジア諸国をつなぐ日本の玄関口として貿易や文化交流で栄えてきました。この「四元素とそれによって育まれる生命」・「環日本海」という2つの大きな柱を基本コンセプトに、今日いっそう注目されるようになった、専門的な美術の枠を超えた自由な表現である「アール・ブリュット」などへの取り組みを含め、日本の各地域、さらには日本海から世界に向かって、メガ・ブリッジ(大きな架け橋)をかけていくという考え方に立っています。



星野 純 / 『始まりのかたち―螺旋17』2017 photo:Hidekazu Oginuma



山内 光枝 / 『海船』2018



松井 義朗 / 『君の天井は僕の床/One Man's Ceiling is Another Man's Floor』(豊田市美術館・2011年)

各会場の参加アーティスト

[メイン会場]=伊藤 公象、岩崎 貴宏、遠藤 利克、大西 康明、塩田 千春、ナウィン・ラワンチャイコン、松井 紫朗、森北 伸 [新潟駅CoCoLo西N+]=間島 領一
 [信濃川やすらぎ堤]=ジャウマ・プレンス [サテライト会場]=伊藤 遠平、丑久保 健一、占部 史人、角地 智史、阪田 清子、高見沢 美穂、冨井 大裕
 [NSG美術館]=荒井 経、伊藤 遠平、伊藤 知香、梶井 照隆、セルゲイ・ヴァセンキン、高見沢 美穂、潘 逸舟、柳 根澤
 [砂丘館]=青木 野枝、池内 晶子、遠藤 利克、古川 知泉、山本 糾 [安吾 風の館]=星野 暁 [旧齋藤家別邸]=青木 千絵、星野 暁
 [北方文化博物館新潟分館]=荒井 経×柳 根澤(コラボレーション企画) [新潟市美術館]=古川 知泉、星野 暁 [西海岸公園]=南川 祐輝 [関分記念公園]=菅 懐實
 [天寿園]=折元 立身、潘 逸舟、山内 光枝 [旧栗ノ木排水機場]=青木 野枝、磯辺 行久 [清五郎潟]=日比野 克彦 [新津美術館 前庭]=高田 洋一
 [上堰潟公園]=土屋 公雄 APT(=アートプロジェクトチーム)田原 唯之+木村 恒介 [角田浜]=浅葉 克己

CITIZEN 市民プロジェクト



水と土の文化創造都市市民プロジェクト2016 白井アートプロジェクト2016

市民自ら企画・運営を行う、市民と地域が主役のプロジェクトです。公募によって選ばれた、「水と土」をテーマとした84もの多様で多彩なプロジェクトには、新潟に生まれ、新潟で暮らす市民だからこそ見える歴史や暮らし文化の魅力が詰まっています。市民と一緒に参加し、新たな新潟の魅力を体験してください。今回の芸術祭では、それぞれのプロジェクトの連携やアートを活用して地域の課題に取り組む「地域拠点プロジェクト」を立ち上げ、新たな可能性にもチャレンジしています。



水と土の芸術祭2015 photo:Osamu Nakamura



水と土の芸術祭2015 市民プロジェクト 礎篇 2015 ONE MORE CUP STORY

SYMPOSIUM シンポジウム

「自然との共生」を大きなテーマに、オリンピック文化プログラムや新潟開港150周年などと関連させた「水と土」に相応しい、新潟らしい魅力の発信と地域活性化につながるトークイベントを開催します。



水と土の芸術祭2015 photo:Osamu Nakamura

第1回シンポジウム
 アートプロジェクトの関わり方 ～アートで社会の“境界”を超える～
 ■8月19日(日)15:00～ ■朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター中会議室
 第2回シンポジウム
 食文化による地域づくり ～郷土食の再生からの地方創生～
 ■9月2日(日)14:00～ ■朱鷺メッセ新潟コンベンションセンタースノーホール
 みずつち座談会
 芸術祭参加アーティストや各分野で活躍する有識者による座談会式トークを4回開催

KIDS 子どもプロジェクト



野村 誠 / 『日本をチャリティー音楽団とのファミリー・オーケストラワークショップ』



流木アートワークショップ

こどものためのワークショップなど、創造の喜びや驚きを体験することができるプログラムです。芸術を通して地域の歴史や文化への理解を深め、こどもたちの個性と創造性を育みます。



土谷 享(KOSUGE1-16) / 『どんと!』巨大紙相換 雷電東御場所(2017年)

参加アーティスト 井川 惺亮、ISOPP、土谷 享(KOSUGE1-16)、友友 麻理子、野村 誠、ハヤシ ヤスヒコ(パラモデル)

にいがた JIMAN

「食」や「農」、「伝統芸能」「おどり」など、新潟市の誇る豊かな文化をPR。「水と土」によってもたらされた新潟の宝物を自慢します。さらに、アーティストが新潟の魅力を引き出すワークショップも実施。メイン会場には、芸術祭公式ショップもオープンします。



食と農
 新潟の水と土の恵みである食を通して、新潟と出会う3か月



ショップ「橋、私。」
 新潟らしい「はしわたし」をテーマにした、ウキウキするバス!?型のお店



アートパフォーマンス
 参加アーティスト:
 大友 良英、藤田 貴大(マームとジプシー)



伝統芸能・おどり
 新潟の水と土が育んだ多彩な伝統芸能を披露



新潟開港150周年記念事業
水と土の芸術祭2018

にいがたJIMAN
伝統芸能パフォーマンス



水と土が育んだ 多彩な伝統芸能。

7/16

日本と海外の伝統音楽の共演

◆出演/史佳(津軽三味線)、和田啓(パーカッション)
◆日時/7月16日(月・祝) 13:30(開場は13:00)

◆会場/りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館 能楽堂
◆料金/2,500円(全席指定)

ふたつの伝統楽器が共演する ぜいたくな時間

日本の伝統楽器「津軽三味線」とアラブの伝統楽器「レク」による異色のコラボレーション。出演するのは、日本人として初めてルーブル美術館での演奏をおこなった新潟市出身の津軽三味線奏者・史佳と、国内外で精力的に活動するレク奏者・和田啓。ルーツをまったく異なるふたつの楽器の音色が、伝統の重みをまとうて、能舞台の空間を心地よく満たしていきます。

◆出演者プロフィール

史佳(ふみよし)

ふるさと新潟に拠点を置き、三味線プレイヤーとして国内外で演奏活動・講演活動をおこなっている。音の響きを大切に「弾(ひ)き三味線」奏法を得意とし、津軽三味線のスタンダード曲はもちろん、近年は作曲家/アレンジャーの長岡成貢氏とともに新しい三味線の楽曲作りにも取り組み、古典を大切なベースとしながらも、伝統芸能の枠を超えた新しいニッポンの音楽を目指して活動している。

和田啓(わだ けい)

タンバリンの原型とも言われるアラブの打楽器「レク」の奏者。エジプト・カイロにてハニー・ベダール氏に師事。日本国内をはじめ、レク発祥の地でもある中東やヨーロッパ、中米など、様々な海外の地域で演奏活動をおこなっている。また、作曲家としての活動もおこない、多くの演劇・映画音楽を手掛けている。



史佳



和田啓

9/15-17

にいがた総おどり

9月15日、16日: ワークショップ
9月16日、17日: 市民団体パフォーマンス
& ワークショップ、市民団体パフォーマンス

◆日時/9月15日(土)~17日(月・祝) ◆会場/万代島多目的広場(屋外広場)
11:00~16:00(予定) ◆入場無料

爆発的なおどりのオンパレード

毎年9月に盛大におこなわれるイベント「にいがた総おどり祭」を水と土の芸術祭の会場で実施。4日4晩おどり明かしたと言われる江戸時代の盆踊りの風景を現代に甦らせた「新潟下駄総踊り」なども開催します。15日と16日はにいがた総おどりワークショップを、16日と17日は市民団体のパフォーマンスも実施。16日にはヒップホップ世界大会優勝のChibiUnityが登場します。



にいがた総おどり

にいがた総おどり
新潟下駄総踊り

©新潟総踊り祭実行委員会



8/19

プロと高校生が魅せる 民謡の底力

& ワークショップ、市民団体パフォーマンス

◆出演/古町芸妓(日本舞踊市山流)、羽茂高校郷土芸能部(佐渡市)
◆日時/8月19日(日) 13:00~16:00(予定)
◆会場/万代島多目的広場(屋外広場) ◆入場無料

あでやかでつややかな和のひととき

みなとまちとして発展した江戸時代の新潟では、花街が栄えました。そこで振舞われた日本舞踊・市山流の芸を受け継いだ古町芸妓が登場し、艶やかな舞を披露します。羽茂高校郷土芸能部は清々しく佐渡の芸能を演じます。公演後には、羽茂高校郷土芸能部によるワークショップも開催。また、市民団体によるパフォーマンスも実施します。

ふるまちげいぎ
古町芸妓はもろこうまうどげいのぶ
羽茂高校郷土芸能部

8/26

伝統と現代の エンターテインメントの共演

& ワークショップ、市民団体パフォーマンス

◆出演/KYOKO(日本伝統の奇術・手妻師)、FOOZY(バルーンエンターテナー)
◆日時/8月26日(日) 13:00~16:00(予定)
◆会場/万代島多目的広場(屋外広場) ◆入場無料

たのしくて、まかふしぎ

江戸時代に誕生した日本古来の伝統的な手品を操るKYOKOと、新潟市出身のバルーンエンターテナー・FOOZYによるコミカルなステージ。それぞれの技はもちろん、伝統と現代のエンターテインメントのちがいも楽しむことができます。公演終了後には、手妻体験・バルーン体験ワークショップも実施。市民団体によるパフォーマンスもおこないます。



KYOKO



FOOZY

9/24

新潟と佐渡の伝統文化の共演

◆出演／薫風之音(箏・尺八)、城腰花笠踊保存会(鬼の舞・花笠踊りなど)

◆会場／りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館 能楽堂

◆日時／9月24日(月・祝) 13:30(開場は13:00)

◆料金／1,500円(全席指定)

日本の大切なひびきと地域の大切なまつり

新潟市を拠点に活動する箏と尺八による和楽器ユニットの薫風之音と、佐渡で育まれてきた城腰の花笠踊りによるジョイント公演。薫風之音は、現代的なアレンジが施された童謡やわらべ歌、新潟の美しい風景を思い起こさせるオリジナル曲を披露。日本古来の楽器特有の音色が会場を包み込みます。城腰の花笠踊りは、例祭では八角形の柵の中で演じられる伝統の踊りを、芸術祭特別バージョンの形で披露。荘厳な鬼の舞も必見です。

◆出演者プロフィール

薫風之音(くんぷうのおと)

自らの思いを込めて作編曲し、演奏することで、心の琴線に触れる響きが生まれると感じた箏(こと)奏者の藤崎浩子と尺八奏者の鯨岡徹の二人が2006年に結成。箏・尺八という日本の伝統的な楽器で、現代を生きる自分たちの思いや願いを表現する。これまでに3枚のCDを発売。りゅーとびあアウトリーチ事業第一期登録アーティスト。

城腰花笠踊保存会(じょうのこしはながさおりほぞんかい)

佐渡市城腰で伝承されてきた、五穀豊穡を祈願する伝統芸能で、こどもたちによる花笠踊・鬼の舞・法問答・鹿踊の演目で構成される。昭和27年12月10日に新潟県の無形民俗文化財の指定を受ける。毎年9月15日直前の日曜日に実施される久知八幡宮の例祭に、八角形の柵の中で演じられる。



薫風之音



城腰花笠踊保存会

食や農、伝統芸能やおどり。古くから、新潟の水と土は、ここで暮らすわたしたちにたくさんの恵みをもたらしてきました。これらはすべて、みなとまち文化や米づくりに代表される農文化の中で、わたしたちの暮らしと密接に関わりながら生まれ、いまに至るまで脈々と受け継がれてきた「にいがたJIMAN」です。

「にいがたJIMAN伝統芸能パフォーマンス」では、豊作を祈る神楽や、過酷な農作業を癒す爆発的なおどりと祭りなど、新潟市ならではの姿で継承されてきた多くの伝統芸能を披露します。

新潟市以外の伝統芸能とあわせて、水と土が育んだ多彩な伝統芸能をお楽しみください。

10/8

新潟市8区の伝統芸能の共演

&ワークショップ

◆出演／松浜太鼓(北区)、山の下木遣(東区)、沼垂木遣(中央区)、棧俵神楽(江南区)、田島神楽(秋葉区)、角兵衛獅子(南区)、赤塚太々神楽(西区)、越後傘ぼこ(西蒲区)

◆日時／10月8日(月・祝) 11:00~15:00(予定)

◆会場／万代島多目的広場(屋外広場)

◆入場無料

多彩なにいがたJIMAN、大集結!

五穀豊穡を祈願する獅子舞神楽や太々神楽、伝統の作業歌の木遣り、祭りを彩り盛り上げる巨大な傘ぼこや太鼓など、さまざまな伝統芸能が一堂に会する特別公演。新潟市内の各区から集まった8団体が、芸術祭のフィナーレを飾ります。公演終了後には、各団体によるワークショップとワークショップ参加者によるチャレンジパフォーマンスも行います。



松浜太鼓



山の下木遣



沼垂木遣



棧俵神楽



田島神楽



角兵衛獅子



赤塚太々神楽



越後傘ぼこ

9/23

新潟伝統のリズムと ストリートパフォーマンスの共演

&ワークショップ、市民団体パフォーマンス

◆出演／新潟万代太鼓 華龍、Toshihiko Nakazawa(ストリートパフォーマー)

◆日時／9月23日(日) 13:00~16:00(予定)

◆会場／万代島多目的広場(屋外広場) ◆入場無料

うなるリズムにわきたつカラダ

新潟市伝統の和太鼓・万代太鼓を演奏し、祭りを盛り上げる新潟万代太鼓 華龍と、アメリカを拠点に活動するストリートパフォーマー、Toshihiko Nakazawaが共演。伝統と現代、和と洋が次々と入れ替わる異色のコラボレーションは、芸術祭ならではの華やかな舞台となります。公演終了後にはトークライブやワークショップも実施。また、市民団体によるパフォーマンスもおこないます。



新潟万代太鼓 華龍



Toshihiko Nakazawa

チケットの購入方法

チケットのご購入

インターネット

→ チケットぴあ

・7月16日公演(Pコード:118-613)

・9月24日公演(Pコード:118-619)

窓口

→ りゅーとびあインフォメーション、新潟伊勢丹

5月25日(金)から販売開始!

※未就学児はご入場できません。

※万代島多目的広場(屋外広場)で実施するいずれの公演、ワークショップとも、雨天時に会場を変更または中止とする場合がございます。当日の開催情報は水と土の芸術祭2018公式ホームページでご確認ください。

ワークショップの参加方法

いずれのワークショップも

参加費は無料、申し込み不要です。

各ワークショップ当日に会場で直接ご参加ください。

会場アクセス

万代島多目的広場 (新潟市中央区万代島4-2):水と土の芸術祭2018メイン会場

電車、バス

JR「新潟駅」万代口バスターミナル3番線(佐渡汽船線)乗車、「朱鷺メッセバス停」下車

車

磐越自動車道「新潟中央IC」より約25分

新潟バイパス「紫竹山IC」より約20分

※専用駐車場はありません。

万代島駐車場(有料)や周辺の有料駐車場をご利用ください。

りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館

(新潟市中央区一番堀通町3-2)

電車、バス

JR「新潟駅」万代口バスターミナル萬代橋ライン(BRT)

青山方面行乗車、「市役所前バス停」下車徒歩5分

車

磐越自動車道「新潟中央IC」より約20分

新潟バイパス「桜木IC」より約10分

※専用駐車場はありません。白山公園駐車場(有料)、

新潟市陸上競技場駐車場(有料)などをご利用ください。



お問い合わせ

水と土の芸術祭2018実行委員会事務局

〒951-8550 新潟市中央区学校町通1番町602番地1(新潟市文化創造推進課内)

電話: 025-226-2629 FAX: 025-226-0050 メール: info@mizu-tsuchi.jp

http://2018.mizu-tsuchi.jp/

www.facebook.com/mizutuchi

twitter.com/mizutsuchi2015



主催: 水と土の芸術祭2018実行委員会

助成: 一般財団法人地域創造

企画協力: 株式会社サイト

